授業科目	社会福祉調査の基礎					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	4	開講時期	前期
担当教員	杉谷　修一						
授業概要	この授業では、社会福祉調査の意義と目的および方法の概要について理解することを目標とする。社会福祉調査は社会的存在としての個人から制度にいたる幅広い対象を量的・質的なデータとして把握しようとするものである。それらの特徴を区別・理解した上で、適切な調査を行うための実践的基礎を養う。また、社会福祉調査をめぐる倫理上の諸問題を検討し、社会福祉調査に携わる者としての最低限必要とされる倫理的態度と方法を学ぶ。						
授業形態	講義			授業方法	Google Classroom の活用 ・自主学習の支援（レジュメ、資料等の掲示） ・学生からの質問等に対する回答・解説の掲示 ・Google フォームによるアンケートや小テストなど		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	(1) 社会調査の意義と目的について理解できる。 (2) 社会調査と社会福祉の歴史的関係について理解できる。 (3) 社会調査における倫理や個人情報について理解できる。 (4) 量的調査の理論と方法について理解できる。 (5) 質的調査の理論と方法について理解できる。 (6) ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解できる。
理想的レベル	(1) 社会調査の意義と目的について十分理解できる。 (2) 社会調査と社会福祉の歴史的関係について十分理解できる。 (3) 社会調査における倫理や個人情報について十分理解できる。 (4) 量的調査の理論と方法について十分理解できる。 (5) 質的調査の理論と方法について十分理解できる。 (6) ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について十分理解できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	100%	
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21204J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予習	4

・Google Classroom に掲示する資料（配布スライド資料、参考資料、動画リンク等）を活用する。 復習 ・予習で使用した資料に加え、授業中に指示した資料を活用し、興味、関心、疑問点を調べる。	

授業計画	
第 1 回	社会福祉調査の意義と目的・倫理と個人情報保護
第 2 回	統計法の概要
第 3 回	社会調査の歴史
第 4 回	母集団とサンプリング
第 5 回	横断調査と縦断調査
第 6 回	尺度水準と統計量
第 7 回	調査票の作成
第 8 回	調査票の配布・回収
第 9 回	量的調査の基礎（1）データの概要
第 10 回	量的調査の基礎（2）母集団の性質
第 11 回	量的調査の基礎（3）推定と検定
第 12 回	質的調査の基礎（1）面接法・観察法
第 13 回	事例調査の基礎（2）事例研究・ナラティブアプローチ
第 14 回	事例調査の基礎（3）エスノグラフィー・TEM
第 15 回	事例調査の基礎（4）GTA・アクションリサーチ
テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新　社会福祉士・精神保健福祉士養成講座５　社会福祉調査の基礎』中央法規
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	総務省統計局『なるほど統計学園初級・上級』 https://www.stat.go.jp/naruhodo/index.html 総務省政策統括官（統計基準担当） 『生徒のための統計活用』『高校からの統計・データサイエンス活用　上級編』 https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/info/guide/stkankyo.htm ※その他、Google Classroom にも資料を掲示する。
課題に対するフィードバックの方法	課題・質問等への回答は以下のように行う。 （1）授業中に全体に説明する。 （2）Google Classroom に掲示する。 （3）メールでの質問は本人への回答を基本とするが、許諾があれば全体で共有する。
学生へのメッセージ・コメント	社会福祉の対象となる個人や集団を調査によって把握・理解するための基礎的方法を学ぶ授業である。このような対象にはこの方法、この方法にはこのような長所と短所があるなど、使用場面や限界などを具体的にイメージしながら学んで欲しい。授業において、テキストや資料の解説をじっくり行うので、統計的方法や数学の基礎的考え方に馴染みがない学生も、粘り強く学習に取り組んで欲しい。